

ディーピーと行く ちばまちなか時代さんぽ

昔から暮らしに寄り添ってきた街の銘店をちばしんさんが
散策ルートにまとめました。歴史を感じながら散策できる
「ちばまちなか時代さんぽ」をお楽しみください。



巧と匠（たくみ）巡り

(きぼーる通り)⑨精美堂→
(旧吾妻町通り)⑩関口園→
(旧通り町通り)⑪高田屋人形店→
(栄町通り近く)⑫辻忠商店

老舗の甘味食べ歩き

(富士見本通り)⑬虎屋→(旧通り町通り)
⑭榎家→(千葉神社近く)⑮木村屋→
(旧通り町通り)⑯フルーツすぎうら→
(千葉銀座通り)⑰与三郎の豆腐井商店

昭和の面影巡り

(きぼーる通り)⑱九州とんこつラーメン幸福軒→
(旧吾妻町通り)⑲千葉劇場→蓮池通り→
(千葉神社近く)⑳通町公園(東屋)→
(栄町通り)㉑蛸 TAKO

まちなか名産お土産巡り

(千葉銀座通り)㉒与三郎の豆腐井商店→
(きぼーる通り)⑨精美堂→(中央公園近く)
㉓チーバくん物産館→(栄町通り近く)
㉔本田海苔店(食品)→①千葉神社(お守り)
※順路外㉕いのはな亭(御城印)

旅の途中にちょっと一息

- 一 呂久呂(千葉銀座通り 043 224 5251)
店内の絵画やこだわりのカップで頂く珈琲は格別
- 二 Café de seizan(市美術館内 080 2393 0578)
作品の回想に浸りながらの落ち着いたひととき
- 三 いのはな亭(いのはな公園 043 224 7428)
庭園を眺めながら楽しむ、いのはな団子は数量限定
- 四 蛸 TAKO(栄町通り 043 222 0818)
ポップなお店で頂く厳選素材の美味しいタコ焼き

旅の終わりに舌鼓

- 五 阿づ満庵本支店
(千葉銀座通り 本店 043 222 2371 支店 043 222 2598)
昭和初期創業、兄弟の名店。名物箱蕎麦は花街の証
- 六 金寿司(千葉銀座通り近く 043 222 3955)
戦後から続く千葉銀座、江戸前寿司の老舗
- 七 丸万寿司(蓮池通り 043 222 3414)
受け継ぐ伝統と時代の変化を織り交ぜたおもてなし
- 八 をざわ(三井ガーデンホテル千葉近く 043 224 1305)
創業大正5年。厳選した国産鰻だけを使用した名店
- 九 九州とんこつラーメン幸福軒(蓮池通り 043 225 5029)
昭和レトロな雰囲気とこだわりの九州豚骨ラーメン
・定休日・営業時間などお調べの上ご来店ください

裏面のQRコードから職人動画が見られます

↑旧国鉄千葉駅
(昭和38年まで)



首都圏をまわって探検・発見するのが大好きな犬「ディーピー」。
得意技は「深掘り」です。
今日も首から望遠鏡をぶら下げて、首都圏のディーブなネタに
鼻をクワンリかせています。

ディーピー

妙見通り



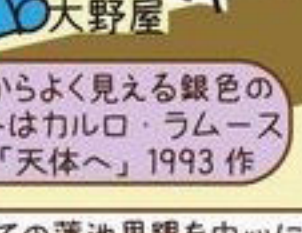
12 辻忠商店
大正12年から
提灯、看板を創る
街の広告代理店



24 本田海苔店



11 高田屋人形店



14 榎家



19 千葉劇場



17 与三郎の豆



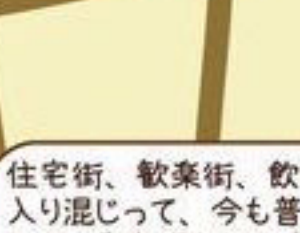
18 九州とんこつ
ラーメン幸福軒



9 精美堂



住宅街、歓楽街、飲食店などが
入り混じって、今も普通に営業
している店ばかりですが、なぜか
懐かしさやノスタルジーに繋がる
不思議な雰囲気がこのあたりには
点在します



21 通町公園



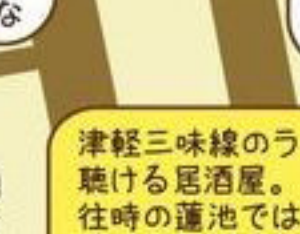
2 常胤像



16 フルーツすぎうら



13 虎屋



10 関口園



7 若葉郵便局



6 大和橋



5 郷土博物館



街の歴史はここから。妙見をまつる
強力なパワースポットとしても有名。
全国で唯一の重層(2階建て)社殿は
朱色に塗られ、とても美しい



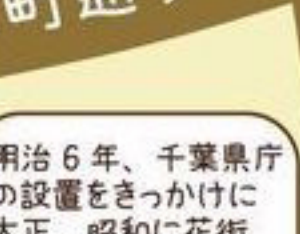
1 千葉神社



21 通町公園



2 常胤像



16 フルーツすぎうら



13 虎屋



10 関口園



7 若葉郵便局



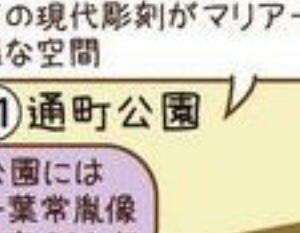
6 大和橋



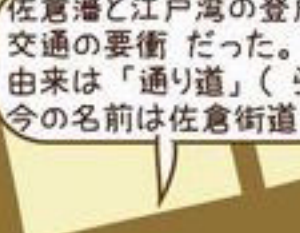
千葉氏の菩提寺「大日寺」が
戦災で移転してからできた公園
昭和40年代、洋風石造りの東屋と
大理石の現代彫刻がマリアージュした
不思議な空間



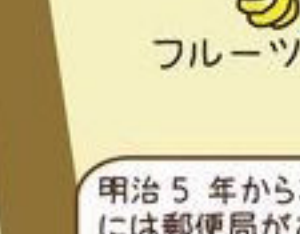
1 千葉神社



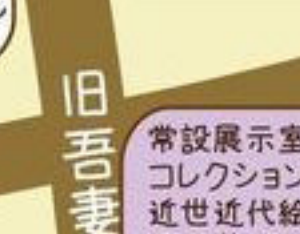
21 通町公園



2 常胤像



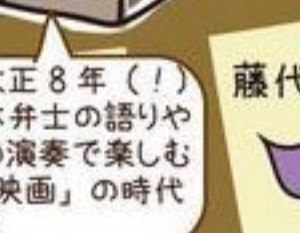
16 フルーツすぎうら



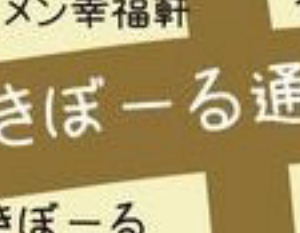
13 虎屋



10 関口園



7 若葉郵便局



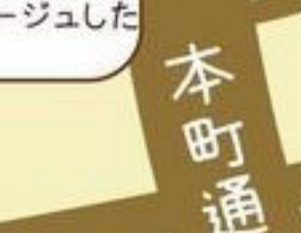
6 大和橋



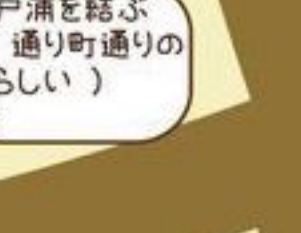
千葉神社は子育て
ファミリーに優しい
神社。授乳室や
おむつ替えスペース
など子供向けの
施設も充実している



1 千葉神社



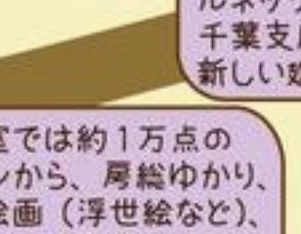
21 通町公園



2 常胤像



16 フルーツすぎうら



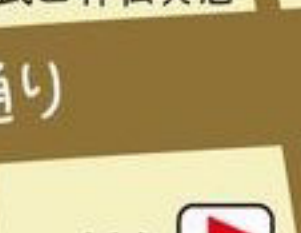
13 虎屋



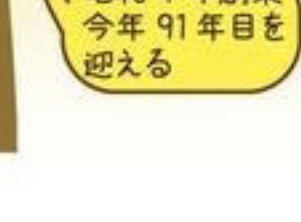
10 関口園



7 若葉郵便局



6 大和橋



佐倉藩と江戸湾の登戸浦を結ぶ
交通の要衝だった。通り町通りの
由来は「通り道(うしろ)」
今の名前は佐倉街道



1 千葉神社



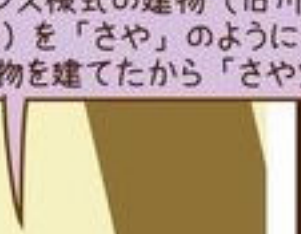
21 通町公園



2 常胤像



16 フルーツすぎうら



13 虎屋



10 関口園



7 若葉郵便局



6 大和橋



のんびり歩く 歴史のさんぽ道

- ①千葉神社→②常胤像→吾妻橋→③御飯屋→
④大階段→⑤郷土博物館→⑥お茶の水→大和橋→
⑦千葉市美術館→⑧千葉神社



15 木村屋



1 千葉神社



2 常胤像



7 若葉郵便局



6 大和橋



5 郷土博物館



4 大階段

千葉氏がいたと伝えられる
猪鼻城跡に建てられた
博物館。千葉市の歴史を
学ぶことができます

お茶の水で休憩
した(らしい)人
源頼朝・水戸黄門

900年近く続く「妙見大祭」の
神輿は吾妻橋、大和橋を通っ
て千葉神社と御飯屋の間を往復
する夏の風物詩

明治6年、千葉県庁
の設置をきっかけに
大正、昭和に花街
として栄えた街

明治5年からこの場所
には郵便局がありま
した。平成4年からは
「若葉郵便局」の名前
になりました

昭和2年に建てられた価値のあるネオ
ルネッサンス様式の建物(旧川崎銀行
千葉支店)を「さや」のように包んで
新しい建物を建てたから「さや堂ホール」

常設展示室では約1万点の
コレクションから、屏風や
近世近代絵画(浮世絵など)、
現代美術のハイライトを
月替わりで鑑賞できる

津軽三味線のライブが
聴ける居酒屋。
往時の蓮池では路地に
三味線の調べが
聞こえていた

かつての蓮池界隈を中心に
幾つもの花屋さん、和菓子屋
さん、寿司屋さんがある。
これもかつての花街の名残かな

モノレールからよく見える銀色の
モニュメントはカルロ・ラムス
(イタリア)「天体へ」1993作

千葉市内の物産品が一堂に
並び、おみやげにぜひ

千葉銀座の中心地、
大正12年から
提灯、看板を創る
街の広告代理店

竹の生垣と芝生の公園には
千葉の街を作った千葉常胤像
がある。もうすぐ開府900年

住居街、歓楽街、飲食店などが
入り混じって、今も普通に営業
している店ばかりですが、なぜか
懐かしさやノスタルジーに繋がる
不思議な雰囲気がこのあたりには
点在します

街の歴史はここから。妙見をまつる
強力なパワースポットとしても有名。
全国で唯一の重層(2階建て)社殿は
朱色に塗られ、とても美しい

千葉神社は子育て
ファミリーに優しい
神社。授乳室や
おむつ替えスペース
など子供向けの
施設も充実している

佐倉藩と江戸湾の登戸浦を結ぶ
交通の要衝だった。通り町通りの
由来は「通り道(うしろ)」
今の名前は佐倉街道

明治6年、千葉県庁
の設置をきっかけに
大正、昭和に花街
として栄えた街

明治5年からこの場所
には郵便局がありま
した。平成4年からは
「若葉郵便局」の名前
になりました

昭和2年に建てられた価値のあるネオ
ルネッサンス様式の建物(旧川崎銀行
千葉支店)を「さや」のように包んで
新しい建物を建てたから「さや堂ホール」

常設展示室では約1万点の
コレクションから、屏風や
近世近代絵画(浮世絵など)、
現代美術のハイライトを
月替わりで鑑賞できる

津軽三味線のライブが
聴ける居酒屋。
往時の蓮池では路地に
三味線の調べが
聞こえていた

かつての蓮池界隈を中心に
幾つもの花屋さん、和菓子屋
さん、寿司屋さんがある。
これもかつての花街の名残かな

モノレールからよく見える銀色の
モニュメントはカルロ・ラムス
(イタリア)「天体へ」1993作

千葉市内の物産品が一堂に
並び、おみやげにぜひ

千葉銀座の中心地、
大正12年から
提灯、看板を創る
街の広告代理店

竹の生垣と芝生の公園には
千葉の街を作った千葉常胤像
がある。もうすぐ開府900年

住居街、歓楽街、飲食店などが
入り混じって、今も普通に営業
している店ばかりですが、なぜか
懐かしさやノスタルジーに繋がる
不思議な雰囲気がこのあたりには
点在します

街の歴史はここから。妙見をまつる
強力なパワースポットとしても有名。
全国で唯一の重層(2階建て)社殿は
朱色に塗られ、とても美しい

千葉神社は子育て
ファミリーに優しい
神社。授乳室や
おむつ替えスペース
など子供向けの
施設も充実している

佐倉藩と江戸湾の登戸浦を結ぶ
交通の要衝だった。通り町通りの
由来は「通り道(うしろ)」
今の名前は佐倉街道

明治6年、千葉県庁
の設置をきっかけに
大正、昭和に花街
として栄えた街

明治5年からこの場所
には郵便局がありま
した。平成4年からは
「若葉郵便局」の名前
になりました

昭和2年に建てられた価値のあるネオ
ルネッサンス様式の建物(旧川崎銀行
千葉支店)を「さや」のように包んで
新しい建物を建てたから「さや堂ホール」

常設展示室では約1万点の
コレクションから、屏風や
近世近代絵画(浮世絵など)、
現代美術のハイライトを
月替わりで鑑賞できる

津軽三味線のライブが
聴ける居酒屋。
往時の蓮池では路地に
三味線の調べが
聞こえていた

かつての蓮池界隈を中心に
幾つもの花屋さん、和菓子屋
さん、寿司屋さんがある。
これもかつての花街の名残かな

モノレールからよく見える銀色の
モニュメントはカルロ・ラムス
(イタリア)「天体へ」1993作

千葉市内の物産品が一堂に
並び、おみやげにぜひ

千葉銀座の中心地、
大正12年から
提灯、看板を創る
街の広告代理店

竹の生垣と芝生の公園には
千葉の街を作った千葉常胤像
がある。もうすぐ開府900年

住居街、歓楽街、飲食店などが
入り混じって、今も普通に営業
している店ばかりですが、なぜか
懐かしさやノスタルジーに繋がる
不思議な雰囲気がこのあたりには
点在します

街の歴史はここから。妙見をまつる
強力なパワースポットとしても有名。
全国で唯一の重層(2階建て)社殿は
朱色に塗られ、とても美しい

千葉神社は子育て
ファミリーに優しい
神社。授乳室や
おむつ替えスペース
など子供向けの
施設も充実している

佐倉藩と江戸湾の登戸浦を結ぶ
交通の要衝だった。通り町通りの
由来は「通り道(うしろ)」
今の名前は佐倉街道

明治6年、千葉県庁
の設置をきっかけに
大正、昭和に花街
として栄えた街

明治5年からこの場所
には郵便局がありま
した。平成4年からは
「若葉郵便局」の名前
になりました

昭和2年に建てられた価値のあるネオ
ルネッサンス様式の建物(旧川崎銀行
千葉支店)を「さや」のように包んで

ちばしんきん地域レポーターがご紹介！ちば匠の銘店

街に息づく伝統の技。ちばしんきん地域レポーターが歴史を繋ぐ銘店をご紹介します。

▶ 職人たちの「仕事」は動画に収録されています。QRコードから携帯画面でご覧ください。

⑨ 技術の精美堂

〒260-0013 千葉市中央区中央 4-5-1 きぼーる 1 階
TEL 043-225-3748 営業時間 9:00～18:00 (土日祝定休)
URL <https://hannko.co.jp/>



大正12年、精美堂はこの地で印章・ゴム印の製造販売を始めました。創業して100周年を迎える老舗店です。四代目の当店は、幼い頃から職人たちが働く姿を見て育ち、4年間に及ぶ手彫りの修行も経験しています。精美堂ではスピードと正確さだけでなく、厳選した素材と本物の技術を軸に、職人たちが使い手の幸せや発展を願いながら印鑑を作っています。長く事業を続ける秘訣を何うと「現状に満足せずチャレンジ精神を持つこと」と当店は明言します。難しい相談にもすぐに「できない」と断らず、「できる」方法を考え抜くよう社員に指導しているそうです。近隣では新たなマンション開発が進む中、古くから地元で愛されてきた精美堂では「更に街おこしに力を注いでいきたい」と当店は語ります。これからも使って楽しい商品が登場するようなのでとても楽しみです。



⑪7 千葉名産 与三郎の豆 福井商店

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-16-5
TEL 043-224-4360 営業時間 9:30～17:30 (水土定休)
URL <https://yosaburo.com/>



南品川の米屋をやっていた創業者（当代の祖父）が昭和22年に千葉へ転居した際に、千葉名産の海苔を主商品として「総三郎のり店」を創業しました。同じく千葉名産である落花生を取り扱う店も別の屋号「与三郎の豆店」で同時に創業しました。「与三郎の豆」という名前は、木更津湾を舞台にした歌舞伎「世話情浮名横櫓」が由来です。当代は千葉県八街産の落花生にこだわり続けてきた「与三郎の豆」というブランドを上げていくためにネット通販やデイリー商品の開発にも力を入れています。店頭には並ぶ沢山の名物の中でも毎年11月頃に出る殻付き落花生の新豆が現在の看板商品となっています。千葉銀座商店街の理事長も務めた当代は街や社会への強い思いを持っています。「地域全体のこと、落花生農家のことなど自社以外のことも考えながら、千葉で事業を続ける『意地』と雇用の『維持』という2つの『イジ』を大切にしている」と語っていただきました。



⑪3 御菓子司 千葉虎屋

〒260-0015 千葉市中央区富士見 2-12-1 虎屋ビル 1 階
TEL 043-222-2469 営業時間 10:00～18:00 (日曜定休)
URL <https://www.c-toraya.jp/>



戦前戦後の食糧難の時代は多くの人が食べることに苦労しました。その時の経験から人に喜ばれるお菓子作りの想いに繋がり、昭和13年に千葉市で創業しました。多くの人に長く愛される和菓子を作ろうと行き着いたのが今も看板メニューとなっている「どら焼き」です。子供でもちぎれるほどに柔らかく、小豆の香りが程良くほんのり甘いどら焼きは「我が子に食べさせたい」という想いでこだわり抜いた結果生まれました。当代は生まれ育った千葉市に住むお客様への恩返しという気持ちから、世代を問わず愛される店作りと伝統も革新も兼ねた魅力的な品ぞろえを心掛けています。お茶会で使う上生菓子は季節に合わせて年間140種類を店頭には並び、若い世代に人気が高い毎大福は県内で初めて販売、他にも積極的にオリジナル商品を開発しています。多くの人に楽しんで頂ける虎屋の和菓子。当代は「会社や個人への手土産にぜひ利用してほしい」と語ります。



コラム 街に人を想う ～平安から令和まで1000年以上続く千葉の街～

平安時代、文学者の菅原孝標の娘が父と共に市原から京都へ戻る様子を綴った「更級日記」。源氏物語を読みふけていたことや、この街の近くで雨によって足止めされたことが記されています。

千葉常重が千葉の街を開いた1126年、その翌年には今まで一度も途切れずに続いている千葉神社の妙見大祭（だらだら祭り）が始まっています。

平家との戦いで敗れ、逃れて来た房総で、驚くほどの短期間に復活を遂げた源頼朝。その陰には鎌倉幕府の基礎となる国づくり、街づくり、食文化など幅広く提案した千葉常胤（千葉常重の息子）の姿がありました。頼朝が鎌倉へ攻め入り幕府を打ち立てる1180年ごろの事は鎌倉時代の記録「吾妻鑑」に細かく記されています。歴史に「もし」はタブーですがロマンでもあります。千葉常胤と、常胤を父と慕う源頼朝の関係が無ければ今の日本は違ったものになっていたかもしれません。

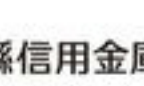
江戸時代には徳川家康や徳川光圀（水戸黄門）がこの街を訪れています。北斗七星を祀り、戦の神でもあった千葉神社（妙見寺）の参拝にも来たとでしょう。水戸から千葉を経て船で鎌倉に渡った黄門さまの、墓参りを綴った旅日記「甲寅紀行」には亥鼻山の「お茶の水」の記載もあります。

きっと助さん格さんと一緒に湧き出る泉で一服してますよね。

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

日本財団「わがまち基金」は、信用金庫との連携により地域に新たなお金の流れを創出することで、地域が独自の強みを生かした自立的かつ持続可能な社会の創生を図ることを目的としたプロジェクトです。「しんきん圏央道アライアンス」は、圏央道沿線に本・支店を置く5つの信用金庫が、「わがまち基金」のサポートを受けて圏央道沿線等の地域活性化や観光資源の活用などを通じて、地域経済の発展につなげる活動を行っています。

Shinkin Central Area ALLIANCE



⑪20 蓮池通り ライブキッチン ちゃ太郎

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-7-11 小川ビル 2 階
TEL 043-224-5983 営業時間 18:00～24:00 (日祝定休)
URL <https://cyataro.net/>



「ライブキッチンちゃ太郎」はオーナーがお世話になった「街への恩返し」として平成13年栄町に開店、平成18年に今の場所、かつて花街として栄えた通称「蓮池」に移転しました。明治時代から蓮池界隈は千葉の花柳界の中心で三味線の音や行き交う人々の喧騒でにぎやかな街でした。「ちゃ太郎」は生演奏を聴きながらの食事と、旬の素材を使った店主のおまかせ料理が自慢のお店です。店主が17歳の頃から続けている津軽三味線やギターの演奏など、居酒屋としてだけでなく音楽も楽しめる安らぎの場所としてあり続けたいと語ります。今の蓮池は近隣の大型商業施設が開店し、子どもの数も減って賑わいの少ない街となったものの、古き良き文化が残る街です。店主は「ちゃ太郎の店内でイベントや芸術塾、モノづくり体験などを開催できれば、人が集まる空間になり、日本の良き和の心と文化の伝承、そして街全体の盛り上げに繋がっていく」と語ります。



⑪12 提灯と祭り イベントグッズ 辻忠商店

〒260-0016 千葉市中央区栄町 38-2 TEL 043-224-2033
営業時間 9:00～19:00 (土・祝祭 18:00 まで 日曜定休)
URL <http://www.tsujichu.com/>



大正12年、市原市で夙職人を営んでいた本家の分家として辻忠商店は千葉市に創業しました。当時から昔ながらの日本の文化を伝えようと提灯の筆耕を主に営業していました。千葉神社に繋がる妙見通りに面していることから半纏（はんてん）、地下足袋、股引きなどの祭り用品が店頭を飾り、祭りのシーズンには多くの愛好家が店を訪れます。三代目の当店は提灯、旗や幕などの昔ながらの和の文化と職人の技を後世に残しながら、オリンピックのパナー、テイクアウト用の幟（のぼり）、ポップ類の店舗用品、パーティグッズ等、取扱商品の拡大を図り、インターネット通販など新しい販売スタイルを取り入れていきました。100年にわたりこの地で営業してきたのでこの「栄町」には強い思い入れがあります。「時代が移り行く様を見てきただけに再び子どもたちがこの街に集まり賑わいが戻ってきてほしい」と当店は強く願っています。



⑪10 美味しいお茶をお届けします 関口園

〒260-0013 千葉市中央区中央 4-7-15
TEL 043-224-4006 営業時間 9:00～18:00 (日祝定休)
URL <http://sekiguchien.com/>



昭和4年に現在の地に開業、現在の当主は三代目となります。美味しいお茶の買える店として90年間にわたり地域の皆さまに支えられてきました。かつてはこの街にも日本茶専門店が数多く存在し独自のブレンドにより個性を発揮、固定ファンを獲得していましたが、近年の大量生産コストダウンの流れや嗜好の変化の中で残る店は本当に少なくなっています。品種、生産地、生産条件、仕上げなど味を決める要素の多々ある中で、スーパー等に並ぶ品とは明らかに違った魅力を放つ品を提供していきたいと考えています。ペットボトルに飽き足らず急須でお茶を淹れる方が若い層にも戻りつつある中、日本茶インストラクター有資格者として美味しく楽しむコツなども店頭でアドバイスしています。旧くからの味わいとフレンドリーな暮らしやすさのあるこの街で、老舗の「関口園のお茶」が地域の魅力につながるよう励んでおりますのでぜひ一度お立ち寄りくださいと語っていただきました。



千葉県許諾第 A2423-1 号
千葉県 P R マスコットキャラクター チーバくん